



2019年4月18日

各位

会社名 株式会社LIXILグループ
代表者名 代表執行役会長 潮田 洋一郎
(コード番号 5938 東証・名証各一部)
問合せ先 IR室 室長 平野 華世
(TEL. 03-6268-8806)

海外子会社における損失の計上に伴う通期業績予想の修正、
および国内子会社での特別損失の計上に関するお知らせ

当社の連結子会社である Permasteelisa S.p.A. (本社：イタリア、以下、「ペルマスティリーザ社」) における損失の計上が見込まれることとなったことに伴い、2018年10月22日に公表しました2019年3月期の通期業績予想を下記の通り修正しましたのでお知らせいたします。

なお、同時に、2019年3月期においてペルマスティリーザ社の親会社である株式会社LIXIL (以下、「LIXIL」) の個別決算 (日本基準) においても同社に対する関係会社株式評価損を計上いたします。

記

1. 2019年3月期 通期業績予想数値の修正 (2018年4月1日～2019年3月31日)

	売上収益	事業利益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に 帰属する 当期利益	基本的 1株当たり 当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	1,845,000	45,000	40,000	34,000	4,500	1,500	5.17
今回発表予想(B)	1,832,000	13,000	△15,000	△18,000	△50,000	△53,000	△182.76
増減額(B-A)	△13,000	△32,000	△55,000	△52,000	△54,500	△54,500	△187.93
増減率 (%)	△0.7	△71.1	-	-	-	-	-
(ご参考) 前期通期実績 (2018年3月期通期)	1,829,344	76,046	59,107	65,100	56,662	54,581	189.13

(注) 事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出した金額であります。また、(ご参考)として記載している前期通期実績数値は、当期2019年3月期第2四半期において、従来「非継続事業」として表示されていたペルマスティリーザ社の損益を「継続事業」に表示を組み替えた後の数字を記載しております。

2. 修正の主な理由

2018年11月27日付「(開示事項の中止) 連結子会社の異動(株式譲渡)の合意解除に関するお知らせ」でお知らせしましたとおり、当社はペルマスティリーザ社の発行済普通株式の100%を中国のGrandland Holdings Group Limitedへ譲渡すること(以下、「本件株式譲渡」)を2017年8月21日に決定したものの、2018年10月に、対米外国投資委員会(CFIUS)から、本件株式譲渡を承認できない旨の通知を受領しました。これに伴い、2018年11月には、本件株式譲渡の解除を決定いたしました。

当社では、この本件株式譲渡の解除以降、ペルマスティリーザ社および当社グループ全体の事業の強化に向けた強固な事業プランを策定するためのあらゆる可能性を検討するため、ペルマスティリーザ社における受注物件について、包括的、かつ、あらゆる側面から精査を実施すると共に、収益性回復のための再生計画の策定を進めてまいりました。

当該精査の結果、主として、北米における受注物件を中心とした複数のプロジェクト物件において、原材料等の高騰、現場作業員や技能工の不足に起因した工事人件費単価の大幅な上昇等による工事原価の悪化が将来に渡って見込まれること、熟練プロジェクトマネージャーの退職を要因としたプロジェクトマネジメント能力の低下等により、今後、工事完成までに要する工事コストについて大幅な増加が見込まれたため、工事損失引当金の追加計上が必要となりました。また、世界経済の停滞に伴う経営状況の悪化等によりプロジェクト物件の施主の変更等に伴い、将来の回収が見込めないと判断された債権については、貸倒引当金を計上いたしました。

当社では、こうした状況に対し、事業規模縮小(遂行力の範囲内でのプロジェクト物件の選別受注、販管費削減による固定費の最適化など)、および、確実なキャッシュフロー経営への転換を図る再生計画を策定し、今後、その実行により収益性の回復に努めてまいります。

当該再生計画には、事業規模の縮小や拠点の統廃合を含むため、かかる事業環境の変化について国際会計基準(IFRS)に基づく減損テストを実施した結果、のれんを含む無形資産について減損損失を計上することとなりました。

また、当社の完全子会社であるLIXILにおいても、上記の連結ベースの損失計上に伴い同社が保有するペルマスティリーザ社株式を評価減したことにより、単体ベース(日本基準)において関係会社株式評価損として700億円を特別損失として計上いたしました。なお、当該損失は連結決算上で消去されるため、当社連結決算に影響はありません。

上記の精査の結果、現時点で判明したペルマスティリーザ社に関わる当初通期業績見込との差異金額および主な要因は下記の通りです。

2019年3月期のペルマスティリーザ社に関わる当初通期業績見込との差異金額および主な要因

内容	段階損益	金額(百万円)
①(売上収益)主として採算が悪化している北米地域における選別受注による影響	売上収益	△22,500
②(売上原価)北米地域を中心とした追加工事原価の発生		△20,600
③(売上原価)中東やアジア地域を中心とした回収困難な債権の評価減		△8,100
④(売上原価)その他引当金の繰入額		△2,600
⑤(販売費及び一般管理費)		△1,700
	事業利益	△33,000
⑥(その他の収益・費用)のれんを含む無形資産の減損等		△24,500
	営業利益	△57,500
⑦(税金費用)		3,000
	当期利益	△54,500

なお、ペルマスティリーザ社を除く事業については、国内需要の回復などに伴い、2018年10月22日公表の業績見込みに対し、国内事業は利益計画を超過達成、海外事業では未達となる見込みです。国内外の事業を合計すると、事業利益は概ね見込み通り、営業利益以下の段階利益では、超過達成を見込んでおります。

3. 今後の見通し

ペルマスティリーザ社の業績に関する今後の見通しについては、「補足説明資料 2019年4月18日公表の『海外子会社における損失の計上に伴う通期業績予想の修正、および国内子会社での特別損失の計上に関するお知らせ』について」をご参照ください。ここではペルマスティリーザ社の全ての受注物件について、包括的、かつ、あらゆる側面から精査を実施した上で、2019年3月期及び2020年3月期以降において、将来に悪化する要素も含め現時点で判明しうる全ての利益悪化要因を見込んでおります。

また、当社の2019年3月期通期の決算発表は2019年5月13日を予定しており、2020年3月期の業績予想は、決算発表時に公表いたします。なお、現時点で見込まれるペルマスティリーザ社の今後の経営再建に関わる構造改革費用、および、概ね翌連結会計年度以降に完工が見込まれる低粗利のプロジェクト物件にかかる損益影響等については、2020年3月期の業績予想に含める予定です。

なお、現時点では当社の2019年3月期の期末配当金予想35円に変更はありません。

(注) 上記の予想は、現時点における入手可能な情報に基づいて作成しており、実際の業績は様々な要因により予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

以上

補足説明資料

2019年4月18日公表の「海外子会社における損失の計上に伴う通期業績予想の修正、および国内子会社での特別損失の計上に関するお知らせ」について

株式会社LIXILグループ

(コード番号 5938 東証・名証各一部)

代表執行役社長

Chief Operating Officer 山梨広一

代表執行役副社長 経理・財務・M&A担当

Chief Financial Officer 松本佐千夫



Copyright © LIXIL Group Corporation. All rights reserved.

目次

本補足説明資料には、以下のものが含まれております。

(1) 2019年3月期 4/18公表 修正後通期業績予想

(2) 2019年3月期 通期業績予想の修正の主要な要因

(2.1) 修正要因1：ペルマスティリーザ社における再生計画策定手続き・受注物件精査の結果認識した損失、および、のれんを含む無形資産の減損

(2.2) 修正要因2：その他

(3) ペルマスティリーザ社 業績悪化要因、再生計画、今後の見通し

(ご参考) ペルマスティリーザ社の状況 (新規受注・受注残高・無形資産残高明細)

(注)

- 本資料に記載の数値は、現時点における入手・分析可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。
- 現時点において、2019年3月期の期末配当金予想35円に変更はありません。
- 2019年3月期の決算発表は、2019年5月13日を予定しております。

(1) 2019年3月期 4/18公表 修正後業績予想

2019年3月期 通期業績を以下の通り修正致します

(億円)	通期			主な業績修正要因別内訳	
	今回 4/18発表 予想	対18/3期 通期 (遡及修正後)	対10/22 公表 業績予想	(要因1) ペルマステイ リーザ社 業績・減損	(要因2) その他
売上収益	18,320	27	-130	-225	95
(従来) 継続事業	16,890	242	95	0	95
ペルマステイリーザ	1,430	-215	-225	-225	0
事業利益	130	-630	-320	-330	10
(従来) 継続事業	550	-203	10	0	10
ペルマステイリーザ	-420	-427	-330	-330	0
営業利益	-150	-741	-550	-575	25
(従来) 継続事業	490	-319	25	0	25
ペルマステイリーザ	-640	-422	-575	-575	0
税引前利益	-180	-831	-520	-575	55
(従来) 継続事業	480	-420	55	0	55
ペルマステイリーザ	-660	-411	-575	-575	0
税金費用	-320	-236	-25	30	-55
(従来) 継続事業	-200	15	-55	0	-55
ペルマステイリーザ	-120	-251	30	30	0
非支配持分	30	9	0	0	0
親会社の所有者に帰属する 当期利益 (損失)	-530	-1,076	-545	-545	0
(従来) 継続事業	250	-414	0	0	0
ペルマステイリーザ	-780	-662	-545	-545	0



前期通期実績数値は、当期2019年3月期第2四半期において、従来「非継続事業」として表示されていたペルマステイリーザ社の損益を「継続事業」に表示を組み替えた後の数字をもとに増減額を記載しております。

3

2019年3月期 通期業績予想の修正の主要な要因

(2) 2019年3月期 通期業績予想の修正の主要な要因

修正要因1：ペルマスティリーザ社における再生計画策定手続き・受注物件精査の結果認識した損失、および、のれんを含む無形資産の減損

#	内容	段階利益	影響金額（億円）
1	（売上収益）主として採算が悪化している北米地域における選別受注による影響	売上収益	-225
2	（売上原価）北米地域を中心とした追加工事原価の発生 ⁽¹⁾		-206
3	（売上原価）中東やアジア地域を中心とした回収困難な債権の評価減		-81
4	（売上原価）その他引当金の繰入額		-26
5	（販売費及び一般管理費）		-17
		事業利益	-330
6	（その他収益・費用）のれんを含む無形資産の減損等 ⁽²⁾		-245
		営業利益	-575
7	（税金費用）		30
		当期利益	-545

影響するセグメント：ビルディングテクノロジー事業（海外）

- (1) 選別受注による売上減少に伴う売上総利益の減少、将来発生する工事原価の厳格な精査・再見積りの結果、将来発生することが見込まれた工事損失（赤字となる工事原価の額）など
 (2) のれんを含む無形資産の減損-253億円、その他+8億円の合計



（注）本資料に記載の数値は、現時点における入手・分析可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

5

(2) 2019年3月期 通期業績予想の修正の主要な要因

修正要因2：その他

#	内容	段階利益	影響金額（億円）
1	（売上収益）国内需要の回復による増収 ⁽¹⁾	売上収益	95
2	（売上原価）主として海外事業における売上未達による原価の悪化（操業度損）および資材高影響等		-77
3	（販売費および一般管理費）販管費抑制による増益		87
		事業利益	10
4	（その他収益・費用） ⁽²⁾		15
		営業利益	25
5	（金融収益費用）主として、為替関連のデリバティブ損益見込差		30
6	（税金費用）主として、税前利益の超過達成分に対する税金費用の増加、および、税効果計上見込差		-55
		当期利益	0

(1) 主として、LIXIL ウォーターテクノロジー事業、LIXILハウジングテクノロジー事業

(2) 当第4四半期において、南アフリカの連結子会社における事業再生計画策定に伴う有形・無形資産の減損（27億円）を認識



6

▶ (3) ペルマスティリーザ社 業績悪化要因、再生計画、今後の見通し

(3) ペルマスティリーザ社 業績悪化要因、再生計画、今後の見通し

▶ 主な業績悪化要因・再生計画における主要な取り組みは以下のとおりです

損益悪化の根本的な原因

- 過去、「規模拡大指向」の下、事業領域・地域を拡大して、管理・遂行能力を上回るプロジェクトを受注
- プロジェクト遂行の質の低下、収益性が悪いプロジェクトやリスクが高いプロジェクトの受注が増加
(不採算プロジェクトの再評価の結果、将来分も含めた損失が表面化)
- 各地域・個社最適の規模拡大指向により各地域・部門の固定費が増加、それを賄うためにさらに受注を拡大
- 2015年に多くの熟練社員が退社して以降、プロジェクト管理・遂行能力が大幅に低下。キャパシティを超えたプロジェクトが更に増加

再生計画における主要な取り組み

- 再生計画を遂行・管理する専任チーム (LIXILとの共同)の結成
- 安定的な収益力を持つコア事業への集中、リスクの高い事業・地域からの撤退、選別受注
- 新規プロジェクト受注の管理徹底、採算・キャッシュフローを重視して受注を厳選
- 膨張した組織をスリム化、大幅な固定費削減
- プロジェクト管理・遂行力の強化

(3) ペルマスティリーザ社 業績悪化要因、再生計画、今後の見通し

今後の見通し

単位 百万ユーロ	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期
売上	1,110	976	1,000	981	992
売上原価	1,102	869	883	864	871
売上総利益	7	107	117	117	121
売上総利益率 %	0.7%	11.0%	11.7%	12.0%	12.2%
販管費	96	90	82	82	81
事業利益	-89	17	35	35	40
構造改革費用 ⁽¹⁾	42	28	7	-	-
受注高	930	940	952	964	968

● ペルマスティリーザ社の全ての受注物件について、包括的、かつ、あらゆる側面から精査を実施した上で、2019年3月期及び2020年3月期以降において、将来に悪化する要素も含め現時点で判明しうる全ての利益悪化要因を見込んでおります。

● 現時点で見込まれるペルマスティリーザ社の今後の経営再建に関わる構造改革費用、および、2020年3月期に完工が見込まれる低粗利のプロジェクト物件にかかる損益影響等は上記の通りであり、2019年5月13日に公表予定の2020年3月期の業績予想においても含める予定です。

LIXIL (1) 構造改革費用は、事業利益より下の段階の「その他費用」として発生する見込みです

9

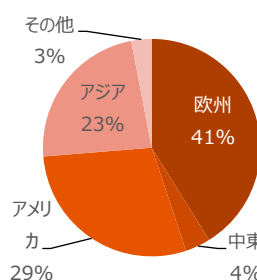
(ご参考) ペルマスティリーザ社の状況

新規受注・受注残高

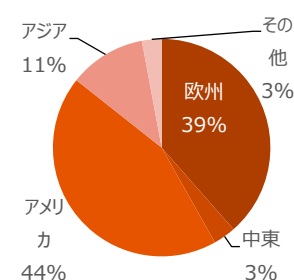
決算期	(単位：百万ユーロ)	
	18/3期	19/3期
新規受注額	1,322	959
受注残高	2,098	1,951



19/3期 新規受注額



19/3期 受注残高



のれん・無形資産

(単位：百万ユーロ)

決算期	18/3期	19/3期 通期 (12カ月)			
	期末残高	償却額	減損	その他 ⁽¹⁾	期末残高
為替レート(残高は期末レート、償却・減損等は期中平均レート)	130.52	128.43	128.43	128.43	124.56
のれん	-	-	-75	75	0
無形資産	-	-8	-122	130	0

⁽¹⁾19/3期第2四半期において、ペルマスティリーザ社事業を非継続事業から継続事業に振り替えた際の振戻額

